

飯田市竜丘地域の天竜川沿いの溪谷「鷲流峡」の風景を再生しようと、地元住民とレジャー企業「天竜舟下り」が、斜面を覆う竹林の対策プロジェクトを始動させる。地域公認の組織「竹林伐採パスターズ」が定期的に刈り取るほか、竹の新しい活用法も検討。地域を巻き込んで、環境を整えていく。(高畑章)

「鷲流峡」景観再生へ一丸

飯田
天竜川
竹林を伐採、炭や肥料に



平沢さんの解説で竹林を観察する参加者＝いずれも飯田市時又で

住民と企業が連携

鷲流峡は、同市に架かる南原橋―天竜橋の約三キロの天竜川右岸の一角。天竜小排水系の県立自然公園に属している。植物は三種類の竹をはじめ、クヌギやコナラ、ニセアカシアなどが育つ。パスターズの曾根原宗夫代表(五〇)同市下久堅知久平二と、登録スタッフの一人で森林インストラクターの平沢健さん(四二)同市龍江二による



炭を作るために伐採した竹を細かく切る参加者

と、同地域の竹はもともと計画では、来年三月までと食用だったとされる。で一月に二、三回集まり、豪雨水害などで徐々に入り、同市時又と長野原の手が離れ、放置竹林と化して大きく伸びた。計二・二鈔を伐採。運び出した竹は炭にしたり、これにより、日光を浴びなくなった木々が倒れて腐り出したほか、道路側に薄暗い外見が広がることから「ゴミの不法投棄の温床」のような状態に。環境が崩れる要因が重なっていたという。このため地域では環境の基本構想を基に、景観を保護すべき地点として対策に乗り出した。河川沿いの環境を把握し、数年前から同地域の竹を「放置竹林が周辺の植物いかだや燃料に活用していた「天竜舟下り」とも連携。今年六月にプロジェクトを設立し、報酬制も動植物にも居心地のよい鷲流峡にできれば」と目標を語った。

参加した同市上郷小六の井坪大雅君(三)は「放置竹林が周辺の植物に与える影響が分かり、勉強になった」と話した。曾根原代表は「一人に動植物にも居心地のよい鷲流峡にできれば」と目標を語った。